

平成29年度 さとに保育園事業報告書

1 園児数

(平成30年3月現在)

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	16	28	29	30	31	30	164

2 職員の状況

(平成30年3月)

職種	園長	副園長	主任保育士	保育士	栄養士	調理員	事務	育休	計
人数	1	1	1	26	1	3	1	3	37
正職		1	1	12	1	1		2	18
臨時				11			1	1	13
嘱託	1			1					2
パート				2		2			4

3 保育理念

- 利用者、地域から信頼され愛される保育園

4 保育方針

- 常に利用者の立場に立ってニーズに応え、サービスの向上に努めます
- 一人一人の人格を尊重し、互いの信頼関係をよりよく構築します。
- 地域・自然・人とのかかわりの中で、豊かな人間性の育成をめざします。

5 めざす子ども像

- 明るく活発で元気な子ども
- 親切で友だちと仲よくする子ども
- よく考えて行動する子ども

平成29年度の研究テーマ

『自分を表現し、いきいきと遊びきる子ども』

～自発的に遊ぶための環境づくり～

6 成果と課題

- 公開保育に大学の先生に来ていただき、日々の保育の活性化を図ることができた。さとの保育は子どもの自主性を育てる保育・手作り遊具などで大学の先生にも高評価であった。
- 子どもたちは明るく素直に成長している
- 感染症の流行もあったが、比較的短期で終息することができた
- しっかり遊びこむことができ健康的に過ごすことができた。
- 柔軟体操などにも積極的に取り組むことができた。
- 新人職員の定着のためのエルダー制度に取り組み、新人職員の育成に努めることができた。県の発表会で(参加者は少なかったが、)発表することができた。エルダー職員の自覚や成長もうれしく感じた。メンタルヘルスのために今後この制度の良さを活用していきたい。
- 職員会・主任会・月案検討会・献立検討会等を定期的を開催することで職員の意識が高まった
- 巡回指導・保育訪問相談や教育センターの相談事業等の活用が進んだ。子どもの発達障害への理解が深まってうれしい反面、保護者とのボタンの掛け違いで誤解を招いたことがあった。年3回の連絡会では、山根先生の適切な助言をいただいている。先生方の取り組みも確実である。
- 避難場所について、保護者に避難場所の原案を送付することができた。
- 地域との連携事業で新規に読み聞かせを月1回実施した。短時間で子どもたちも楽しく過ごすことができた。
- 生活発表会の直前にインフルエンザが大流行して、困った。開催時期を検討していきたい。
- 支援センターを地域との連携で積極活用できていなかった。地域の声を集めるような講座を設定していく必要がある。

平成29年度 湖山保育園事業報告書

1. 園児数

平成30年3月

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	12	23	31	30	31	37	164

2. 職員の状況

平成30年3月

職種	園長	副園長	主任保育士	保育士	栄養士	調理員	看護師	保育補助	計
人数	1	1	1	21		4	1	4	33
正職		1	1	10					
臨時				11		1	1		
嘱託	1								
パート						3		4	

新規採用 宮脇可南子(平成29年4月より) 坂本千紘(平成29年4月より)
 安養寺妙子(平成30年1月より) 保育支援員
 茗荷紀子(平成30年2月13日より) 調理員

3. 平成29年度の成果と反省

【事業計画のなかで】

- 保護者と園が子育てをできるだけ共有しながら、子どもの育ちに繋げていくことができた。
- 職員の資質向上の一つとして園内公開保育(3クラス)を実施しているが、保育の内容、意見交換も充実し大変実のある研修の場になった。
 中でもサブテーマである発達をふまえた環境の工夫を意識しながら保育に反映することができ日々の保育の積み重ねを感じた。
 また、鳥取大学地域学部 畑先生の助言により、自分たちの保育の振り返りをする事ができ、反省と自信に繋がった。
- 「かがやき実践公開保育」は今年度会場園であり、特に担当クラスは様々な面から保育を展開することができ、反省もあつたが職員にも大変貴重な研修の場となった。
- 今年度は、外部講師(音楽・英語・体育)による保育を、自由参観とて実施した。保護者の参加もよく、子どもがいきいきと活動している場面をたくさん見て頂き大変講評だった。来年も引き続いて実施していきたい。

○地域との交流事業を手掛けることができなかった。

【児童福祉行政指導監査を終えて】

施設見学の中で

- 衛生安全面について…棚の上からの落下防止と室内の衛生に努める
 - ロッカーのおしぼり置き場の落下防止を取り付ける
 - 各クラスの消火バケツの置き場を変える
 - 各クラスの掃除道具の置き場の工夫

給食関係

- 各日誌の記載について記入漏れがないようにする

アレルギー食について

- 保護者と各献立の確認をし代替品を事前に知らせていく

保育日誌

- 保育課程から年計、月計、週日案につながるようにする
- 食育は各年齢ごとに作成し評価反省を記載する

平成 29 年度 大正保育園事業報告書

1. 園児数 (定員 130名)

(平成30年3月)

年 齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合 計
人 数	15	21	30	29	29	30	154

2. 職員数

職 種	園 長	副園長	戯戯社	保育士	栄養士	調理員	育 休	保育補助	計
人 数	1	1	1	25	1	2	(1)	1	32
正 職	1	1	1	10	1				
臨 時				13		1	(1)		
パート				2		1		1	

3. 保育理念

○利用者、地域から信頼され愛される保育園

大正保育園は、平成25年に鳥取市の指定管理を受け5年を終えます。

移転後の新しい地域にも受け止めていただけるようになり、地域の方々との交流ふえています。また60年来の大正地区との関係の中で継続した支えをいただいています。

4. 保育方針

○常に利用者の立場に立ってニーズに応え、サービスの向上に努めます

○一人一人の人格を尊重し、互いの信頼関係をより良く構築します

○地域・自然・人とのかかわりの中で、豊かな人間性の育成をめざします

5. めざす子ども像

○明るく活発で元気な子ども

○親切で友だちと仲良くする子ども

○よく考えて行動する子ども

6. 具体的な取り組み

[29年度の研究テーマ]

“いきいきとあそび ともに育ちあう子ども”

～やってみたい おもしろそうがいっぱい！遊びきる子どもをめざして～

①身体づくり

・外部講師による指導 (体育教室・リトミック)

・職員による指導 (以上児、未満児に分かれての体づくり指導)

※年齢に合わせた運動遊びを取り入れ、体を動かして遊ぶことが好きな子ども育てに力を入れました。

②食育、菜園活動

- ・園児の祖父に指導をいただき菜園活動に取り組む
- ・いろいろな食材にふれる

※食生活のアンバランスさがうかがえる家庭環境にある子どもが多いため、自分で育て関わることや収穫、クッキングなどを経験することが食への豊かな時間となりました。

②地域、世代間交流（児童館・公民館・町内敬老会・デイサービス）

- ・スマイル会（町内の方）との交流（グランドゴルフ、七夕まつり、親睦会）
- ・公民館（地域夏祭り、敬老会、公民館祭り）
- ・きゅうだいデイサービスとの交流

※地域の方との交流が豊かになっていると感じます。地域の多くの方との交流は様々な体験の機会を与えていただき、子どもたちの豊かな人間性の育ちにつながっています。

③子育て支援（誕生会招待・ほっと♥Heart）

※子どもの成長発達には欠かせない保護者の存在です。子育て能力の低下、社会の中での孤立感などを抱えた保護者に対して、子育てのしんどさだけでなく、子どもの成長を喜びと感じていただけるように、集団生活の子どもたちの姿を発信したり、また保護者同士が交流を持つ機会を作ったりしながら保護者自身の育ちを支援する活動に力を入れました。

5. 予算に関わる事業について

- ・楽器の補充

6. 成果と課題

公設民営5年目は、地域の方との関係を深め交流を行なうことをめざし、保育では子どもたちが安心できる環境の中で、「やってみたい、おもしろい」という喜びや期待を持って活動していくことができる保育に取り組んできました。

園内の公開保育や外部講師を招いての研修を重ねるなかで、子どもたち一人一人の姿・内面を含めて理解して関わることや、肯定的な関わりが子どもを安心させ、自己発揮へと導くことなどを職員で共通理解することができました。また、飼育活動を通して生き物への関心だけでなく、慈しみをもって関わる優しい心の芽生えを育む姿へとつながっていることを感じ今後も大切にしたい保育です。

保護者連携については、保育内容の情報提供を丁寧に行ないました。保護者の立場に立ち情報提供の仕方を考え、写真紙面による玄関掲示をこまめに行い、保育園理解へつなげていきました。しかし、中には掲示だけでは家族に伝えられないとの要望も聞かれ今後の情報発信について考慮していきたいと思えます。

公設民営10年の折り返しである30年度は、この5年間の土台として、地域貢献・子育て支援・子どもを真ん中にした保育園での育ちなどについて、愛情のある保育園運営をめざしていきます。